

平成29年度

事業報告書

自 平成29年 7月 1日
至 平成30年 6月30日

一般財団法人 自然環境研究センター

I. 事業概要

実績に基づく確かな基礎を築き、様々な課題に柔軟に対応できる組織づくりを目指した。事業の柱として「受託事業を中心とした調査・研究」「自主事業を中心とした事業活動」「公益事業」の3つを掲げ、これに沿った事業を推進し、我が国の自然環境保全に資するための活動を行なった。

1. 受託事業を中心とした調査・研究活動

- (1) 調査研究活動の推進
- (2) 調査研究体制の充実
 - ① 地域事務所の維持と状況に合わせた拡張
 - ② 生物多様性分析室の維持
 - ③ 職員の研修・教育
 - ④ 海外関係プロジェクトに対するコミット

2. 自主事業を中心とした事業活動

- (1) 人材派遣サービス
- (2) 東京環境工科専門学校との連携
- (3) その他
 - ① 公益信託事務局
 - ② 鳥獣と国土政策懇談会

3. 公益事業

- (1) 研究開発の推進
- (2) 情報の収集整理、公開
- (3) 生物多様性保全の推進
- (4) 生物分類技能検定
- (5) 法律に基づく登録機関等としての業務

Ⅱ. 事業報告

1. 受託事業を中心とした調査・研究活動

(1) 調査研究活動の推進

次の分野を中心に積極的に調査研究を行った。

- ① 戦略的自然環境調査研究分野
- ② 外来生物影響調査研究分野
- ③ 鳥獣保護管理分野
- ④ 情報処理分野
- ⑤ 危機対応調査研究分野

(2) 調査研究体制の充実

① 地域事務所の維持と状況に合わせた拡張

今年度は昨年同様3つの地域事務所を維持するとともに、特定外来生物ツマアカスズメバチへの対応のため開設した対馬事務所を時限維持したほか、調査研究活動支援のため新たに3つの事務所を開設した。それぞれ活動が継続する間維持される予定である。

奄美大島事務所（鹿児島県奄美大島、平成18年10月開設）

マングース駆除のため44名を配置。混獲防止わな、マングース探索犬などの導入にも取り組む。

小笠原事務所（東京都父島、平成18年11月開設）

世界自然遺産登録に関連し、外来種対策、希少種保護、保全計画策定などのため7名を配置。父島のヤギ、外来プラナリア、兄島のアノールトカゲ、クマネズミの対策、オガサワラシジミ・オガサワラハンミョウの保全など問題は多岐にわたる。

佐渡事務所（新潟県佐渡島、平成20年9月開設）

トキ野生復帰のため2名を配置。2020年に220羽の定着を目標とし、モニタリングを実施した。（定着目標は本年6月に2年前倒しで達成。引き続きレッドリストランクのEW：野生絶滅からCR+EN：絶滅危惧I類へのダウンリストに向けてモニタリング実施中）

対馬事務所（長崎県対馬）

特定外来生物ツマアカスズメバチ防除計画策定のための調査、防除対策実施のため、1名を配置。

福島事務所（福島県富岡町）

いわきステーション（福島県いわき市）

主に帰還困難区域のイノシシ、アライグマ、ハクビシン等への対策を実施。

群馬事務所（群馬県前橋市）

赤城山のシカ対策はじめ群馬県内の鳥獣保護地域における捕獲強化のため開設。

大島事務所（東京都大島支庁）

伊豆大島島内におけるキョン対策のため開設

② 生物多様性分析室の維持

山梨県富士川町（旧増穂町）の生物多様性分析室において、主に大型獣の個体分析を実施した。

③ 職員の研修・教育

職員の資質向上を図るため、各種の研修、学術集会、ワークショップ等への参加を奨励するとともに必要に応じて職員研修を実施した。

④ 海外関係プロジェクトに対するコミット

国際協力機構（JICA）などから依頼を受け、コスタリカ、パラオ、ミャンマー等に人員を派遣し各種調査を行った。また IUCN、ラムサール条約、世界遺産会議等に参加しサポートを行った。

2. 自主事業を中心とした事業活動

調査研究活動から得られた知見や成果を広く社会に還元し、設立以来培ってきたノウハウとネットワークを活用して、社会のニーズに応える以下の事業を実施した。

(1) 人材派遣サービス

平成15年4月1日に一般労働者派遣事業の許可を受け開始した人材派遣事業は、本年度で16年目を迎えた。平成27年9月に人材派遣法が改正され、いわゆる「専門26業務」という区分が撤廃されたため、これまで派遣していた一部の人材は、派遣先への直接雇用に転換されるなど、当センターの派遣事業の環境が大きく変わった。

平成29年度の派遣実績は9件（前年18件）、24名（前年29名）であった。

(2) 東京環境工科専門学校との連携

設立時より協力関係にある東京環境工科専門学校に対し、カリキュラム編成の助言や講師の派遣等を行い、自然環境保全を担う人材育成を行った。特に4年制学科の野生動物管理技術者養成コースについては、鳥獣被害防止部が全面的にバックアップを行い、狩猟従事者として卒業生の受け入れも行った。

また、TCE環境セミナーを東京環境工科専門学校と共催した。

(3) その他

① 公益信託事務局

自然環境保全に関する経験と実績を活用し、以下の公益信託の事務局を運営した。

- a. 富士フィルムグリーンファンド
- b. ミキモト海洋生態研究助成基金
- c. 四方記念地球環境保全研究助成基金
- d. 増進会自然環境保全研究活動助成基金
- e. 乾太助記念動物科学研究助成基金

② 鳥獣と国土政策懇談会

自然と人間による国土のあり方を考える一助とするため、「鳥獣と国土政策」懇談会を月1回のペースで開催した。

3. 公益目的事業

(1) 研究開発の推進

昨年度に引き続き、野生生物のセンサス手法、外来生物の対策手法、野生生物の保護管理手法等の研究開発、各種システム開発等を行った。

① 鳥獣被害防止に関する技術マニュアル作成事業

多様化する野生鳥獣保護管理分野の業務に対応するために、鳥獣被害防止部を中心に、有害鳥獣捕獲及び個体数調整捕獲、生息環境管理及び被害対策、生体捕獲、普及・指導、人材育成などの事業を展開した。特に、ニホンジカやイノシシなど甚大な被害を出している野生鳥獣を効率的・効果的に捕獲するための技術マニュアルを作成するとともに、地方自治体、JA、農業従事者、狩猟者へ提供することにより、人と野生鳥獣の調和の取れた関係の構築を進めた。

② わな等捕獲用具の改良事業

効率良く鳥獣を捕獲するために、わな等の捕獲用具の改良を行い、被害の軽減につなげた。また、こうした活動から得られた技術の提供を行い、地方自治体や狩猟者に対して技術指導を行った。

(2) 情報の収集整理、公開

資料の収集活動を積極的に行い、実施したプロジェクトの成果を基に情報のデータベース化を進め、活用システムの充実を図った。また、寄贈図書や購入図書等を整理・登録を行った。

(3) 生物多様性保全の推進

昨年度に引き続き、生物多様性の基本である生物種の情報整備（リスト化）と、種の実体を表徴する標本と写真の整備を中心に事業を進めた。

(4) 生物分類技能検定

平成11年度に開始した本事業は、本年度で20年目を迎えた。従来同様、6月に「4級（第1回）検定試験」を実施、11月に「1級一次（筆記）」から「4級（第2回）」までの全級の試験を同日に実施した。また、平成30年2月に1級二次（面接）検定試験を実施し、合格者の登録を行った。

(5) 法律に基づく登録機関等としての業務

① 種の保存法に基づく登録機関・認定機関業務

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づき、環境省及び経済産業省の登録・認定機関として、国際希少野生動植物種の個体、器官の登録業務及び象牙製品の認定業務を行った。

- a 国際希少野生動植物種登録業務（個体）
- b 国際希少野生動植物種登録業務（器官・加工品）
- c 国際希少野生動植物種（象牙製品）認定業務

※ 実施状況は別紙1から3のとおり

なお、法改正に伴い上記 a、b の登録手数料が、平成 30 年 6 月 1 日より、1 個体（1 件）あたり 3,200 円から 5,000 円となった。

② 外来生物法に基づく種類名証明書発行機関業務

平成 17 年 6 月 1 日付けで施行された「外来生物法」に基づき、平成 17 年 6 月 9 日より「種類名証明書発行機関」として業務を開始した。

13 年目の本年度は、1 件の証明書を発行した。事業開始時からの証明書発行数は、273 件となった。

Ⅲ. 構成

1. 役員に関すること

理 事	監 事	評 議 員	計
(内訳) 理 事 長 1 専務理事 1 理 事 7 計 9	2	7	18

2. 職員に関すること

事 務 局 長	事 務 系 職 員	技 術 系 職 員	計
1	16	88	105

平成29年度登録状況(個体・個体の加工品)
(平成29年7月3日～平成30年6月29日)

1. 登録

(1) 登録状況の総括

区分	動物			植物			合計
	個体	加工品	計	個体	加工品	計	
登録申請を受けた数	7,538	128	7,666	2,344	0	2,344	10,010
変更登録を受けた数	0	2	2	0	0	0	2
登録を行った数	7,538	130	7,668	2,344	0	2,344	10,012

(登録を行った申請件数 809件)

(2) 登録済個体数の分類群別内訳

分類群	登録済個体数		
	個体	加工品	計
I 動物			
(1) 哺乳綱	42	66	108
(2) 鳥綱	698	1	699
(3) 爬虫綱	391	63	454
(4) 両生綱	0	0	0
(5) 魚上綱	6,407	0	6,407
(6) 昆虫綱	0	0	0
(7) 二枚貝綱	0	0	0
(8) 腹足綱	0	0	0
II 植物			
(1) サボテン科	0	0	0
(2) その他	2,344	0	2,344
計	9,882	130	10,012

(3) 登録済個体数の要件別内訳

登録済個体数					
本邦内 繁殖	本邦内条 約前取得	外国商業 目的繁殖	本邦外条 約前取得	附属書 I 以外 の個体群	合計
248	691	8,826	224	23	10,012

(4) 登録を受けている国際希少野生動植物種の種名及び個体数

種名	個体数		
	個体	加工品	計
I 動物			
(哺乳綱)			
ワオキツネザル	7	0	7
エリマキキツネザル	8	0	8
ワタボウシタマリン	2	0	2
スローロリス属の全ての種	21	1	22
オオカミ	0	1	1
ジャイアントパンダ	0	1	1
ヒョウ	0	16	16
トラ	0	45	45
アフリカゾウ	0	1	1
アジアゾウ	0	1	1
シロオリックス	4	0	4
(鳥綱)			
ハヤブサ	12	0	12
アカエリハヤブサ	4	0	4
ニョオウインコ	1	0	1
オオバタン	14	0	14
フィリピンオウム	1	0	1
キエリボウシインコ	13	0	13
オオキボウシインコ	4	0	4
コバタン	14	0	14
ヨウム	635	0	635
オオサイチョウ	0	1	1
(爬虫綱)			
ハミルトンクサガメ	19	0	19
マダガスカルホシガメ	61	0	61
クモノスガメ	6	0	6
ビルマホシガメ	78	0	78
アカウミガメ	0	1	1
アオウミガメ	0	17	17
タイマイ	0	45	45
おおあたまがめ科の全ての種	11	0	11
ヨウスコウワニ	7	0	7
ナイルワニ	23	0	23
ワニトカゲ	124	0	124
アオマルメヤモリ	62	0	62
(魚上綱)			
アジアアロワナ	6,347	0	6,347
メコンオオナマズ	60	0	60
II 植物			
(その他)			
オオバシダソテツ	10	0	10
オニソテツ属の全ての種	2,334	0	2,334
計	9,882	130	10,012

2. 届出状況
譲受け等件数

動物						植物		合計
哺乳綱	鳥綱	爬虫綱	両生綱	魚上綱	その他	サボテン科	その他	
110	345	439	0	5,055	0	0	1,157	7,106

住所氏名変更件数

動物						植物		合計
哺乳綱	鳥綱	爬虫綱	両生綱	魚上綱	その他	サボテン科	その他	
15	29	10	0	83	0	0	5	142

3. 登録票の再交付

再交付申請を受けた件数	17
再交付を行った件数	17

4. 登録票の書換交付

書換交付申請を受けた件数	8
書換交付を行った件数	8

5. 登録票の変更登録

変更登録申請を受けた件数	2
変更した登録票交付を行った件数	2

平成29年度登録状況(個体の器官・個体の器官の加工品)
(平成29年7月3日～平成30年6月29日)

1. 登録

(1) 登録状況の総括

区 分	動 物			植 物			合計
	個体の器官	個体の器官 の加工品	計	個体の器官	個体の器官 の加工品	計	
登録申請を受けた数	1,750	233	1,983	0	-	0	1,983
変更登録を受けた数	0	1	1	0	-	0	1
登録を行った数	1,750	234	1,984	0	-	0	1,984

(登録を行った申請件数：1,228件)

(2) 登録済個体の器官・個体の器官の加工品数の分類群別内訳

分類群	登録済個体の器官・個体の器官の加工品数		
	個体の器官	個体の器官 の加工品	合計
I 動物			
(1) 哺乳綱	1,748	234	1,982
(2) 鳥綱	0	0	0
(3) 爬虫綱	2	0	2
(4) 両生綱	0	0	0
(5) 魚上綱	0	0	0
(6) 昆虫綱	0	0	0
(7) 二枚貝綱	0	0	0
(8) 腹足綱	0	0	0
II 植物	0	0	0
合計	1,750	234	1,984

(3) 登録済個体の器官・個体の器官の加工品数の要件別内訳

登録済個体の器官・個体の器官の加工品数					
本邦内 繁殖	本邦内条 約前取得	外国商業 目的繁殖	本邦外条 約前取得	附属書I以 外の器官・ 加工品群	合計
0	1,771	0	0	213	1,984

(4) 登録を受けている国際希少野生動植物種の種名及び個体の器官・個体の器官の加工品数

種名	登録済個体の器官・個体の器官の加工品数		
	個体の器官	個体の器官の加工品	合計
I 動物 (哺乳綱)			
ベンガルヤマネコ	0	42	42
ヒョウ	0	17	17
アフリカゾウ	1,708	0	1,708
アジアゾウ	31	0	31
シロサイ	2	0	2
クロサイ	7	2	9
ビクーナ	0	173	173
(爬虫綱)			
アオウミガメ	2	0	2
合計	1,750	234	1,984

2. 届出状況
譲受け等件数

動物				植物	合計
哺乳綱	鳥綱	爬虫綱	その他		
1,811	0	0	0	0	1,811

住所氏名変更件数

動物				植物	合計
哺乳綱	鳥綱	爬虫綱	その他		
351	0	0	0	0	351

3. 登録票の再交付

再交付申請を受けた件数	88
再交付を行った件数	88

4. 登録票の書換交付

書換交付申請を受けた件数	24
書換交付を行った件数	24

5. 登録票の変更登録

変更登録申請を受けた件数	1
変更した登録票交付を行った件数	1

平成29年度認定状況
(平成29年7月3日～平成30年6月29日)

1. 認定状況の総括

種名	アフリカゾウ	アジアゾウ	合計
認定申請を受けた製品数	59,436	0	59,436
認定を行った製品数	59,436	0	59,436

(認定を行った申請件数 190件)

2. 認定した製品の区分内訳

区分 \ 種名	アフリカゾウ	アジアゾウ	合計
A 印章	53,500	0	53,500
B 調度品	110	0	110
C 装身具	5,366	0	5,366
D 楽器	1	0	1
E 室内娯楽用品	0	0	0
F 食卓用品	1	0	1
G 文房具	0	0	0
H 喫煙具	0	0	0
I 仏具	98	0	98
J 茶道具	46	0	46
K 日用雑貨	314	0	314
合計	59,436	0	59,436